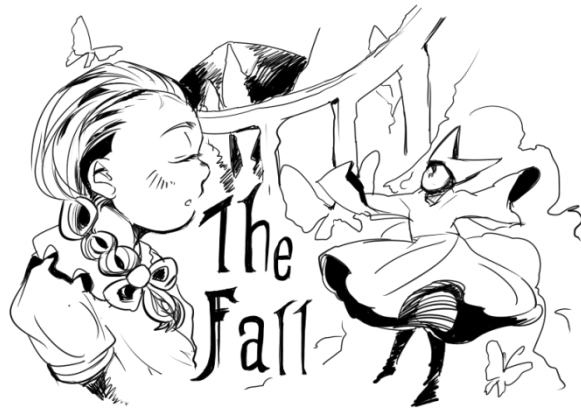


2012年5月12日映像例会



落下の王国 監督ターセムシン

・はじめに

私がこの映画を観るきっかけになったのは高校時代通っていたアトリエの先輩の紹介です。先輩がもの凄い映画を見つけたといい、一気にアトリエ内で流行りました。素晴らしい作家でもある先生も絶賛しており、芸術が好きな人の琴線にふれる映画なのだと思います。

なぜ映像例会にこの作品を選んだのかというと、ミステリが好きな人はサスペンス映画とかは沢山観ているが、案外この作品のような金曜ロードショーではやらない微妙にマイナーなファンタジー映画には手をださないのでは？と思ったからです。ファンタジーに興味がない方でも楽しめる作品であるし、皆様の趣味の範囲を広められたらと思います。

ではCG（ほぼ）なし、構想24年、制作に17年を費やした「落下の王国」をお楽しみください。

・監督、作品紹介

ターセム・シン監督 インド出身、24歳でアメリカに渡る。CMディレクターであり、ザ・セルで初監督となる。

「落下の王国」シッチェス映画祭でグランプリをとる。

主な監督作品 ザ セル (the cell) ・ザ フォール落下の王国 (the fall) ・インモータルズ～神々の戦い～ (immortals)

ザ・セルの時から映像に特にこだわられる監督であったと思います。ザ・セルの方はグロテスクな方向に、落下の王国ではうつくしいほうに。ザ・セルが全世界でヒットをとばし、監督は一躍勝ち組になります。そして、様々なオファーが舞い込んできました。しかし彼はそれらに手をつけることをしませんでした。なぜなら映画をたくさん撮らなければ生活できないということはなかったので、自分の納得のいく映画にしか関わりたいと思わ

なかったからです。そして、監督はかねてから撮りたかった「落下の王国」に取り掛かります。

・役者について

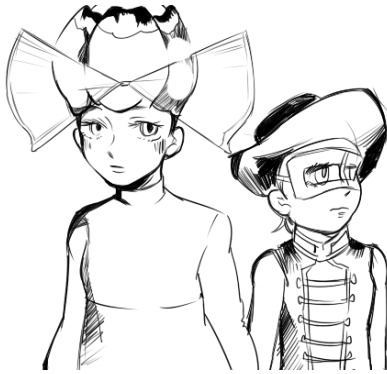
まず、この映画の主人公の女の子の驚かれたのでは演技力に驚かれたのではないかと思います。この映画の子どもの取られ方はとても面白いです。ラストの映画を子どもたちみんなで観るシーンがありますよね、このシーンでは実は音を消したディズニー映画を流しています。どうりで子ども達は生き生きしているわけです。いまどきの子は無声映画を見せられてもあまりいい表情はしないでしょう！このように子どもたちに自然な演技をさせるために様々な工夫がなされています。まず、撮影の順番は変えず物語が流れる時間と同じように撮影も行われています。パリストエキサスでも子役が重要な役割を担っていて同じように撮られていましたね。（革新的なショット、素晴らしい音楽でとてもいい映画なのでよかったら観てください！）それから、彼女が脚本と違う、自然に発せられたセリフそのままが使われているシーン、アドリブで彼女に喋らせたシーンがあります。また、彼女が役者とじゃれあっている姿をカーテンに穴をあけて隠し撮りしているシーンなどもあります。これらのことから、この映画は主人公の少女を演じたカティンカの感性によって大きく支えられているといえるでしょう。脚本に書かれていること以上のことを演じています。

監督は彼女をとっても優れた女優であると評価しています。それが、あらわれているシーンがあります。下手な俳優である場合長いショットの場合はカメラを揺らして表現することがあります。しかし、彼女はカメラにたよらず素晴らしい演技をしてみせました。カメラは後ろから後をつけるだけだったといえます。

しかし、優れた女優であるといってもまだ子どもで、怖いシーンではおびえて失禁してしまったり、悲しみの演技をすべきシーンで笑ってしまうこともしばしばあったとか。しかし、彼女の子どもらしさがロイとアレクサンドリアの関係性により深みをもたしていると思います。

カティンカについてばかり書いてしまいましたが、もう一人の主演リーも素晴らしい役者です。彼は、撮影現場でも足が動かないという演技をしていました。おかげでカティンカはもちろんカメラマンやスタッフも衣装スタッフ以外みんな騙されていたのです。前作での女性らしい演技からは一変して男らしい演技を披露しています。

・キャラクターについて



石岡瑛子によって作られた極彩色の衣装が目立つ

監督が、ゲームービーすれすれの衣装だと笑っていたくらいに確かに単体で見ればすごく奇抜です。ドラッグクイーン真っ青です。しかし、物語を通して見たらとても馴染んでいると思います。これが、彼女がハリウッドでも評価されているデザイナーである理由です。強烈な個性を持ちながら、あくまでアレクサンドリアの頭の中を通して語られる物語の世界の服となっているのです。

物語の中ででてくるキャラクターは、アレクサンドリアが入院生活で出会った人々だということには気づかれましたか？個人的に、レントゲン医が敵役になっているのが面白かったです。確かに怖い！

・オチについて

ここは書かないでおきます。意見の出し合いをしたいと思います。

～興味深かった秘話～

- ・はじめの白黒のシーンでは、混沌としながらも静寂を感じる映像にするためハイスピードカメラが使われた。
- ・役者たちが酔っ払いながら演じたシーンがある
- ・劇中のストップモーションアニメを作ったのはバランス兄妹
- ・徹底的なリアリズムの追求のために、病院も時代をあわせるために探し、今は使われていない精神病院の内装を改装した
- ・最後のシーンの壁の青い町では、もともと青が神聖とされていて青く塗られている家も多かったが、もっと青を強調するために町中に青のペンキ無償で塗りますとふれまわり塗らせてもらった。
- ・猿の死のシーンでは、麻酔を打ち気絶させ血はケチャップ
- ・着想は映画「y o h o h o」から得ている
- ・ゴヤの絵画のようにみせたシーンがある

・さいごに

この映画はいろいろな楽しみ方ができる作品です。映像美を楽しんでもよし、少女と青年の触れ合いをほほえましく思ってもよし。しかし、ストーリーは単調だし、物語に入りこめなかった人にはとてつもなくつまらない映画だったかもしれません。すみません！自分の興味の範囲外であっても評価の高い作品にふれてみるのもいいことかと思えます。許してください。

もし、この作品が気に入ったのなら同じファンタジーで少女が出てくる作品でありながら、全然毛色の違う「パンズ・ラビリンス」を観てみても面白いかもしれません。こっちはとんでもなくダークです。ミス研にはこちらの作品の方が好きな方が多い気がしないでもありません。